

きょうこく 議会だより

2016年11月30日 発行
 京 極 町 議 会

編 集
 議会だより編集委員会
 北海道虻田郡京極町字京極527番地
 TEL 0136 (42) 2111
 郵便番号 044-0101



京極町開基120年記念式典
 ～南京極小学校太鼓～

京極町開基120年記念植樹



おもな内容 ～第3回定例会～

第3回定例会		2～4 P
議会日誌		2～5 P
所管事務調査		4～7 P
一般質問		7～12P
意見書		13P
編集後記		14P

第156号

平成28年

平成28年第3回定例会

審議された議案と結果

平成28年第3回定例会は9月8日に招集され、会期を13日間と定めたあと、諸般の報告、行政報告、監査報告、各委員会所管事務調査報告、報告1件、同意1件、補正予算3件、その他議案1件、意見案1件、平成27年度各会計決算認定6件を審議し、16日閉会しました。

報告

◆健全化判断比率及び資金不足比率について

報告済
平成27年度決算に基づく本町の
実質赤字比率、連結実質赤字比率
につきましては、赤字または資金
不足が生じなかったため比率とし
て出てきません。実質公債比率は
6.7%、前年度より0.5%減
少しております。将来負担比率に
つきましては、実質的な負債額よ
り負債額に充当可能な財源のほう
が大きいことから比率としては出
てきません。

同意

◆教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

同意する

平成28年9月30日で任期満了により、選任されました。

笹浪 淳氏（再任）

岡元 是功氏（新任）

（任期 平成28年10月1日から平成32年9月30日まで）

補正予算

◆平成28年度京極町一般会計補正予算（第3回）

（歳入歳出の補正）
..... 原案可決

予算の総額に、284、415千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ44億4、741千円とするものです。

●主な内容

Ⅱ歳入Ⅱ

【国庫補助金】

・戸籍住民基本台帳費補助金（社会保障・税番号制度システム整備事業費補助金）（戸籍分）
1、158千円

【委託金】

・農業費委託金（中後志地区京極工区土地所有者状況等調査委託金）
199千円

【繰入金】

・基金繰入金（財政調整基金繰入

議会日誌

8月

22日 産業建設常任委員会所管事務調査

23日 議会広報研修会（町内一円）

24日 後志町村議会議員研修会（仁木町）

25・26日 議員全員出席
ふるさと納税全国町づくりサミットin上士幌町

27日 第20回JAようてい農業祭（俱知安町）

29日 総務常任委員会所管事務調査（町内一円）

30日 京極中学校3年生総合学習プレゼンテーション

31日 飲酒運転根絶キャラバン
水の調査特別委員会
議長出席

大学生との町づくり勉強会意見交換会
議員多数出席

9月
1日 産業建設並びに総務合同常任委員会

2日 議会運営委員会
京極八幡神社例大祭

金) 177、296千円

【町債】

・臨時財政対策債

9、300千円追加
・林業債 100、000千円

歳出

【議会費】

・議会会議録調製業務委託料

1、223千円

(定例議会、臨時議会、各特別委員会の、9月から翌年3月までの会議録の調製を民間に委託するものです。)

【総務管理費】

・北海道備考資金組合普通納付金 177、296千円

(備考資金組合の条例改正により、普通納付金の限度額が3億円に引き上げられたことにより、市町村の希望に応じ限度額の3億円に不足する額の範囲において、翌年度以降の普通納付金を一括又は分割納付できることとなりました。不足額を補正し3億円とするものです。)

【戸籍住民基本台帳費】

・番号制度対応業務委託料

702千円追加

(番号制度システムの総合運用テストに係る仕様書が、5月に示

されたため、業務委託料が追加となるものです。)

【児童福祉費】

・児童手当等超過交付金返還金 157千円追加

(平成27年度の交付実績により、超過交付分を返還するものです。)

【農業費】

・4日クラブ60周年記念事業補助金 100千円

(式典祝賀会は11月に予定されており、50周年記念事業同様に補助するものです。)

【林業費】

・ようてい森林組合製材工場建設事業費補助金 100、000千円

(ようてい森林組合製材工場建設事業補助金として補正するものです。現製材工場は建築から40年以上が経過し、建物・機械共に老朽化が顕著で、安定した製材生産の確保を目的に、国の対策事業補助金を活用し新設致します。以前より町に、工場新設に係る支援要請もあり、林業振興策の観点と雇用の増加、固定資産収入などの考えから補助するものです。)

【土木管理費】

・水道特別会計操出金

5、718千円追加

◆平成28年度京極町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2回)

.....原案可決

予算の総額に、296千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ144、171千円とするものです。

歳入

【一般会計繰入金】

・その他一般会計繰入金(国民健康保険事務費分減)等 180千円減額

【国庫補助金】

・総務監理費補助金(国民健康保険制度関係業務準備事業費補助金) 476千円

歳出

【償還金及び還付加算金】

・償還金利子及び割引料(過誤納還付金) 296千円追加

◆平成28年度京極町水道特別会計補正予算(第2回)

.....原案可決

歳入

【道負担金】

・維持管理費道負担金(オロッコ川改修工事に伴う橋梁水道管移設

3	日	中村ひろゆき・村田のりとし合同パークゴルフ大会(町内) 議長出席
5	日	町づくり勉強会における活動報告会(湧学館) 議長出席
6	日	平成28年度敬老会(公民館) 議員多数出席
8	日	第3回定例議会 JETRO・羊蹄輸出協議会(俱知安町) 議員多数出席
9	日	自由民主党第4選挙区支部移動政調会(公民館) 議長出席
16	日	第3回定例議会再開・同日閉会 議長他出席
20	日	平成28年度自衛隊協力会後志隊区連合定期総会(俱知安町) 議長出席
28	日	羊蹄山麓町村議会正副議長会臨時総会 正副議長出席
10月	1	日 京極中学校文化祭 議員多数出席
8	日	「北方アジア遊牧民博物館」開館披露パーティ

工事負担金です。)

3、339千円

【一般会計繰入金】

・一般会計繰入金

5、718千円追加

Ⅱ歳出Ⅱ

【維持管理費】

・委託料(京極地区簡易水道事業
変更認可申請図書作成委託料減額
と新たに簡易水道施設等調査委託
料を示しております。)

4、968千円減額

・工事請負費(オロッコ川改修工
事に伴う橋梁水道管移設工事で
す。)

14、025千円

その他の議案

◆京極町過疎地域自立促進市町村

計画の一部変更について

.....原案可決

過疎地域自立促進計画について、
地域における基幹産業である農林
業の活性化という対策の観点から
事業内容の追加にともない一部変
更するものです。

・事業名 経営近代化施設 林業
・事業内容 ようてい森林組合製
材工場建設事業費補助

・事業主体 ようてい森林組合

認定

各会計決算の認定審査は、第3
回定例会で決算特別委員会にそれ
ぞれ審査が付託され、会期中の9
月14・15日に特別委員会を開催し、
その審査結果を中村委員長から議
会に報告し、認定されました。

◆平成27年度京極町一般会計歳入
歳出決算の認定について

.....認定

歳入総額 65億03、528千円

歳出総額 60億67、898千円

歳入歳出差引残額

4億35、630千円

◆平成27年度京極町後期高齢者医
療特別会計歳入歳出決算の認定
について

.....認定

歳入総額 48、520千円

歳出総額 48、371千円

歳入歳出差引残額 149千円

◆平成27年度京極町国民健康保険
事業特別会計歳入歳出決算の認
定について

.....認定

歳入総額 1億29、503千円

歳入総額 1億29、205千円
歳入歳出差引残額 298千円

◆平成27年度京極町国民健康保険
診療所特別会計歳入歳出決算の
認定について

.....認定

歳入総額 2億88、879千円

歳出総額 2億88、526千円

歳入歳出差引残額 353千円

◆平成27年度京極町水道特別会計
歳入歳出決算の認定について

.....認定

歳入総額 1億53、057千円

歳出総額 1億53、052千円

歳入歳出差引残額 5千円

◆平成27年度京極町下水道特別会
計歳入歳出決算の認定について

.....認定

歳入総額 1億17、180千円

歳出総額 1億17、176千円

歳入歳出差引残額 4千円

所管事務調査

Ⅱ各常任委員会から報告Ⅱ

総務常任委員会

1、調査事項

30	日	京極町開基120年記	正副議長出席
29	日	京極家・丸亀市表敬訪問(役場)	正副議長出席 京極家・丸亀市懇親会(俱知安町)
27	日	京極名水の郷発電所新設工事竣工式及び直会(八幡神社外)	議長出席
23	日	第16回ほかほかまつり(福祉センター)	議員多数出席
22	日	京極町開基120年記念植樹(北海道森と緑の会後志支部環境緑化推進事業)	議員多数出席
21	日	平成28年度京極町共楽クラブ観楓会(公民館)	議長出席
18	日	京極町議会改革調査特別委員会	議長出席
9	日	喜茂別町開町100周年記念式典(喜茂別町)	議長出席

(1) 京極温泉の指定管理状況

(2) 教育施設の管理状況

(3) 救急救命士運用状況

2、調査方法

現地調査

各担当職員から現況の説明を受ける。

3、調査期日

平成28年8月29日(月) 1日間

4、調査結果及び意見

(1) 京極温泉の指定管理状況

京極温泉は、本町の重要な観光地であるふきだし公園に隣接し、町民はもとより、観光客や他町村から訪れる方に利用されている。施設周辺には、パークゴルフ場・キャンプ場などが展開されており、立地条件が良い温泉施設として、いかに集客できるか、期待されるのである。

一方、交通手段の発達と娯楽への「費用を抑える」傾向から、温泉行楽の日帰り傾向は高まっていると判断する。公共の温泉施設も競合化が始まり、採算性が問われている中、温泉施設とレジャー施設との複合化など検討が進むものと思われる。当然ながら、効率的な施設運

営の観点から、必要な施設改修計画など作成し、今後の施設運営に期待するところである。

(2) 教育施設の管理状況

町民皆さまが、生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び得ることができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現が図られなければならないと考えられる。

このたび、生涯学習施設として湧学館、さらに、公民館や体育施設など、利用状況と施設状況について、担当者から説明を受けた。

はじめに、図書館機能を有した生涯学習施設は、学習センターと史料館の機能が融合され、学習、交流、情報発信、活動支援などの役割を担っている。公民館は、各種会合や、芸術・文化の拠点として利用され、各体育施設についても、地域に活力を見い出す大切な役割を果たしている。総合体育館・スリールパーク・リフレッシュパーク・温水プールなど、それぞれの施設において健康増進に繋がる維持・管理に努めていただきたい。

(3) 救急救命士運用状況

羊蹄山ろく消防組合京極支署において、平成29年1月1日から運用開始される救急救命士運用について、担当者より説明を受けた。

京極支署が救急業務を開始したのは平成14年4月1日、以来15年余りの間、町民の安心安全のため、救急標準隊として活動してきた。

・延べ出動件数 3,017件
(平成28年7月末現在)
・年間の平均出動件数 215件

住民の高齢化や疾病構造の変化、一般負傷、交通事故の増加



念式典(公民館)

議員全員出席

京極家・丸亀市交流会
(町内) 議員多数出席

11月

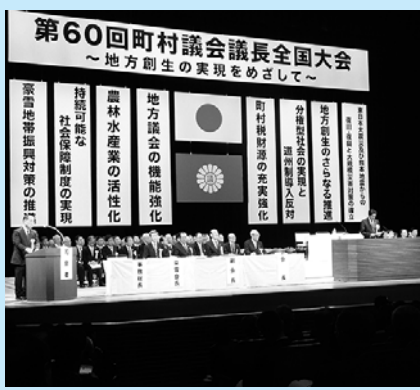
4日 議会だより編集委員会
後志町村議会議長会懇談会(東京都)

7日 北海道横断自動車道に係る中央要望
(東京都) 議長出席

8日 北海道横断自動車道に係る中央要望
(東京都) 議長出席

9日 第60回町村議会議長全国大会並びに第41回豪雪地帯町村議会議長全国大会(東京都) 議長出席

13日 京極小学校学芸会 議員多数出席



など救急患者数は増加傾向にあるとの説明を受けた。

このような現状を踏まえ、地域住民に対する更なる救命率の向上を目指し、平成26年から3年計画で高度救命資機材の整備や資格者の研修等運用開始を目標に準備が進められている。

救急救命士は、救急車に同乗し、傷病者を病院まで搬送する間に救急救命の処置を行う仕事である。すべての救急救命処置は必ず医師の指示の下で行われ、最善を尽くして必要な医療行為を施す。現在、より実践的な訓練や教養座学を繰り返し実施しており、運用開始に向けての準備を確認した。

産業建設常任委員会

1、調査事項

(1)農作物の作付け作況状況

(2)よういて農協人参施設

(3)林道の状況

(4)鳥獣被害対策状況

2、調査方法

現地調査 各担当職員から現況の説明を受ける

3、調査期日

平成28年8月22日(月) 1日間

4、調査結果及び意見

(1)農作物の作況状況について

本年の融雪期は、平年より気温が高く、4月下旬から5月にかけて降水量が少なかったことから、蒔き付け作業など順調に行われたと、農業改良普及センター担当職員より作況状況の説明を受けた。

馬鈴薯「男爵」については、今後の収量についての見込みを示し、本年は作物の成長期に降水量が平年よりも多く、又、低温や夜の湿度が高い時期に発生する疫病についても心配されていたが、現段階の品質・収量とも平年並みを保っているとのことである。

豆類については、大豆・小豆とも開花期が平年より遅めであった。

草丈は平年よりやや短い、莢数は平年並みであり、平年作の収量が期待出来るとの説明を受けた。

人参については、春期の耕起・播種作業が順調に実施され、生育期の高温で生育が心配されたが、質・量とも順調に推移し、既に出荷が始まっている。価格は平年並みとの説明を受けた。

今後、収穫期における天候が大きく崩れることなく、順調な作業が進むことに期待をしたい。

(2)よういて農協人参施設稼働状況について

平成26年度・27年度の2ヶ年計画で、既存の選別能力(2施設合計日量150t)より130t多い、日量280tの能力を有する選別機を設け、品質の安定維持に繋がる真空予冷も設置されている、人参集出荷選別施設について担当者より説明を受けた。

主な作業工程として、粗選別・洗浄・選別・箱詰・真空予冷まで一連作業を機械化され選別作



業の効率化が図られていた。選果された正品は、8月中旬から11月上旬までの間、この施設から全国各市場へ日量約2万ヶースの人参が出荷されている。

今後において、精度の高い選別がおこなわれ、よういて人参の更なるブランド化を進めていきたい。

(3)林道の状況について

林業専用道については、幹線となる林道を補完し森林作業道と組み合わせ、間伐作業を始めとする森林施業に必要な整備を行うものである。

平成24年度から27年度までの4年計画による林業専用道として、国の政策制度を活用し林道開設に当たるもので、林道は、森林を健全に維持・管理し、森林からの恩恵を永続的に生活の場に運ぶための施設など、その公用は多岐にわたるものと判断する。

今後においても、町森林整備計画に基づき、林道の整備及び維持管理に努めていきたい。

(4)鳥獣被害対策状況について
近年、野生動物による作物被害が問題化されている。なかで

議会を傍聴してみませんか!

～次回の定例会は12月の予定です～

- 議会を傍聴する方は、議会事務局で住所、氏名を傍聴受付簿に記入するだけです。
- 定例会は、3月・6月・9月・12月の年4回開かれます。
- 臨時会は必要のつど開かれます。



皆さんの傍聴お待ちしております。

も本町は「シカ」による被害は深刻で、各地で有害鳥獣駆除がおこなわれている。防除方法は電気柵・爆音器により、各農家で取組み成果が出ているが、それに比べ捕獲方法は「銃・くくりわな」と捕獲効率が悪く、さらに、夜間での捕獲が困難なことから、新たな捕獲方法として、道東地区で成果が出ている「移動式囲いわな」に取り組んでいる。

捕獲方法については、今後とも、国の補助金制度などを活用し、作物の被害対策に取り組んでいただきたい。

一般質問

中心市街地の「まちづくり」について



質問

村上 敦 議員

質問事項は、中心市街地の「まちづくり」について。人口減少、過疎化、高齢化が加速度的に進行していく中で京極町中心市街地の空き地、空き家などを放置することにより、買い物、医療などの生活機能低下とそれによる居住人口のさらなる減少、消費の町外流出とそれによる事業活動の停滞と雇用の喪失、京極町への税収が減り、それによる公共サービスの質の低下などをもたらし、中心市街地の機能維持が困難となり、活性化の

必要性について認識を共有することが不可欠であると思います。町は、人、仕事を支える基盤であり、町の活性化、利活用をなくして地方創生の実現はないと私は思っております。

さて、京極町は定住促進のための宅地造成整備事業を展開し、住宅建築資金利子助成事業として平成14年度から平成18年度までの間、町内に住宅を建築をした方に利子の一部を10年間助成、また補助金として平成25年度から平成31年度までの間に町内に住宅を新築または中古住宅を取得した方に費用の一部を補助金として交付、その他の国の支援、軽減制度も加わり、その成果として子育て世代の同年代層の皆さんが居住し、活性化され、コミュニティが形成されていると感じました。その一方、京極町の中心市街地では高齢化、過疎化の進行によりやむを得ず商売を取り

やめるなどして市街地人口が減少傾向にあります。町内会行事など特に葬儀の運営も担えなくなり、支障を来し、深刻化しているのも現状であります。中心市街地を活性化、利活用することにより、道路整備、上下水道整備、除雪路線延長、その他インフラ整備が軽減できること。また、活性化、利活用することによって起業することや子育て世代の就労世帯の移住などが期待でき、京極町も積極的に対策に乗り出す時期だと思います。

空き地、空き家、空き店舗などの活性化、利活用が進まない理由として、土地、建物の解体改修費用や賃貸料の負担などのコスト要因、土地の権利関係の複雑さや所有者の不在、不明などによる地権者要因などがあると思います。その中で活性化、利活用を位置づけることや法律面での対応を整え、継続的に活性化、利活用する仕組みを構築していかなければならないと思います。

北海道新聞、平成28年6月4日の記事によりますと、北海道は平成28年度から空き家対策を進めるモデル市町村を指定して、建築士や宅地建物取引士、司法書士らの



専門家を派遣する取り組みにかかり、空き家などを減らす自治体の動きを支援し、積み上げた実績を他の市町村に反映させる考えで、空き家対策措置法に基づき、より実効性の高い対策を策定するのが狙いであると掲載されていました。

なお、参考として、京極町と隣接する町の商店街空き店舗活用事業補助金交付要綱（平成12年10月施行）を一部抜粋して紹介いたします。目的、第1条、この要綱は、町内における中心商店街の空き店舗の解消を促進し、商店街の振興及び活性化を図る事業を行うおうとする商店街、団体に対し、

当該事業に要する経費の一部を補助することに関し、補助金等交付規則（平成14年規則第17号）に定めるものを除くほか、必要な事項を定めることを目的とする。また、補助率等は要綱の条項に該当した場合で一部抜粋して申し上げますので、参考願います。改装費は、当該費用の3分の1以内、ただし100万円を限度とする。家賃は、当該家賃の3分の1以内、ただし月額5万円を限度とする。補助の対象期間は、事業開始から36カ月以内、または12カ月以内とする。原則、1年以上継続営業とする。以上、参考まで。

さて、先般京極町の「まちづくり」のための提言を京極中学校3年生の生徒による総合学習プレゼンテーションが開催され、さらには9月5日、大学生による京極プロジェクト活動報告会が開催されました。今後の地域の未来を担う皆さんが様々な価値観の習得から変わりゆく時代に対応するため、未来を見据えた「まちづくり」への提言をいただき、新たな価値観を生み出すきっかけを私は創造いたしました。

以上のことから、ぜひともビ

ジョンにより将来像を共有し、戦略的に取り組むことが必要不可欠であると思います。山崎町長の考え方をお聞きいたします。

以上で質問を終わります。

答弁 山崎町長

村上議員の一般質問に対しお答えいたします。

近年の急速な高齢化と地方から都市部への転出超過等により、京極町においても人口の減少が続いております。また、高齢者の急速な増加が見込まれているところでもございます。このような人口の変化は、今後人口が減るという状況を前提としてまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

京極町は、中心部に住宅や店舗兼住宅が集中するほか、郊外部にも住環境が存在しております。町内広い範囲に住環境が存在する中で、人口が減少することになれば中心部も含めて空き家、空き地が点在する状況になると考えられます。また、商工業や医療、福祉など一定の人口により支えられてきた生活サービスに影響を与えると

ともに、公共施設、インフラの維持更新費用の増大や固定資産税収入の減少など、さまざまな課題が発生することが懸念されます。

京極町にとって中心地とは、三条通りや二条通り、これらの周りの住宅地域であり、京極町が未来につながっていくためには農業、商工業の維持、活性化が不可欠なものと考えております。高齢者にとっても子育て世代にとっても安心できる生活環境を実現するための一つの手段として、京極町の中心市街地を活性化させることが必要であると思います。

京極町においては、平成25年より移住、定住を促進させる目的で新築住宅を取得した方に対し100万円の定額補助を実施し、さらに平成27年から中古住宅を購入される方に対しても購入費用の一部を補助する定住促進事業に取り組んでおります。中古住宅を追加した理由としては、全国的な消費者の需要が新築住宅よりも安価に購入できる空き家を含む中古住宅へ移行している状況にあるためであります。また、空き家の活用を促進するため、後志地域の19自治体・建築士会、宅建協会、後志総合振

興局等で運営する「しりべし空き家バンク」に本町も加盟しております。

空き家バンクは、平成23年度より運営しており、当初は景観を守り育てるという目的で廃屋撤去などの検討がされてきましたが、現在利用可能な空き家の活用を図る趣旨で所有者が売りたい、若しくは貸したい空き家を登録し、業者を仲介させて買い手を見つけるといった取り組みとなっています。本町においても平成27年度までに5件の登録、うち4件が成約までにつながっています。平成28年度においては、制度の啓発と空き家の活用促進を図ることを目的として、5月に発送する固定資産税の納付書に空き家バンクのチラシを同封しています。その結果、2件の登録申請や相談があり、一定の効果があったと感じています。

社会福祉協議会においては、子供から高齢者まで地域コミュニティ組織の日常的な活動の場として福祉拠点の機能を構築するため、町内空き家を活用して整備を行っているところでございます。さらに、昨年より冬期間の雪の管理状況から町内の空き家のデータベ-

スを整備中であり、今後は所有者に対して将来の維持管理や売却意向も含めた意向調査を実施することで町内空き家と移住定住希望者のマッチングが図られるものと思っております。

全国的に空き家数は増加の一途をたどっており、平成26年には「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が制定され、一定の行政処分が可能となったところです。人口減少と高齢化を背景に町内の中心地のみならず、全町的に空き家が増加すると考えられます。それらが長く放置されることにより、景観や生活環境の悪化や老朽化による倒壊の危険など、周囲に多大な悪影響を及ぼすものと思われます。また、商店街周辺の活力を維持していくためには、空き家対策が一つの鍵となると感じているところでもあります。中心地に移住者などの新しい風が取り組まれることも重要であると考えます。

ただいま村上議員から他町村においては空き家や空き店舗の利活用、管理あるいは除却、あるいは起業費用に対して一部助成制度を行い、移住者の受け入れや子育て世代の若者の定住を促進している

事例もご助言いただきました。本町においても、それら等を検討し、実施すべき方向で進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、さきの中学生の総合学習によるプレゼンテーションや都内大学生の京極プロジェクトによる活動報告の中でも貴重な意見をいただいているところでございます。これらも参考にさせていただき、町内の中心市街地を主体としたまちづくりに努力してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

質問

村上 敦 議員

ただいま山崎町長から私の質問に対しまして前向きな答弁をいただきました。

現状を踏まえて、可能性ある未来を次世代につなぐために認識を共有して「まちづくり」することが不可欠であり、責任でもあると思います。

以上で終わります。再答弁の必要はありません。

光ケーブル有効活用について



質問

小柳 光義 議員

光ケーブルの有効活用について。今現在国は平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法を施行し、人口減少に歯止めをかけるべく地方総合戦略を樹立するよう求めています。このことを受けて、京極町は総合戦略を平成27年12月に完成しております。その中で重要な

目標を掲げているのは次のとおりであります。

① 地域資源を生かした産業の活性化と雇用の拡大

② 京極町への移住、定住を実現できる生活環境の整備

③ 結婚、出産、子育ての支援の充実

④ 福祉、医療体制の充実

以上4つの柱を目標として、今後の京極町政策を立てて進めていくこととしております。

私は、この中で今回2番目の京極町への移住、定住を実現できる生活環境の整備を取り上げたいと思います。ご承知のとおり、京極町は情報化時代に対応するために光ケーブルの整備を議会から要請し、民主党政権時代ではありましたが、私と同僚議員数名と道庁へ出向き、平成22年度より事業化でき、市街地しか利用できなかったインターネットの高速ブロードバンドサービスが郊外でも利用可能となりました。また、平成23年7月にはアナログ放送が廃止され、地上デジタル放送に完全に移行されましたが、従来の共同受信施設を継承し、地上デジタル放送及びBSデジタル放送の再送信事業に

活用しております。さらに、公共施設内LANの活用にも光ケーブルを利用しております。しかし、既に整備された光ケーブルをこの事業だけで終わらすには宝の持ち腐れでないかと思えます。さらに、ほかにも活用する方法は幾らでもあります。例えば広報システムの実現、福祉システムの実現、介護システムの実現、防災システムの実現、事務システムの実現、その他教育、医療にも幅広く活用できると思えます。私は、これら一度に行うことは大変だと思えますので、できるところから進めては

どうかと思っております。

先ほど申し上げましたが、生活環境の整備ということで、まず最初に京極町の広報部分から進めてはと思えます。今現在京極町は広報紙を発行していますが、これをテレビのチャンネルに組み入れ、テレビで町民の方々にお知らせをする、また防災情報もテレビで周知できるようにする、さらに議会中継も行い、傍聴しなくても議員の発言活動がお茶の間で見られ、理解できるようにする。これらのことにつきましては、予算さえ計上すれば来年度からすぐにでも

きるはずであります。山崎町長は、このことについてどのような考えになるのか明確にお答えいただきたいと思えます。

また、先ほど申し上げました、他にもいろいろな利用できるシステムがありますが、これにつきましてはそれぞれの専門分野において検討をお願いして、着実に進むべきと考えております。どうかお答えいただきたいと思えます。以上です。

答弁 山崎町長

小柳議員の一般質問に対しお答えいたします。

質問の要旨の中の現在の利用状況のことについてご質問がございましたので、その利用状況の関係につきまして、最初にお話を申し上げたいというふうに思います。

現在の光ケーブルにつきましては、平成23年7月に供用が開始され、5年が経過しているという状況でございます。光ケーブルにより地上デジタルテレビ放送の再送信サービス及びNTTへの光ケーブル芯線貸与によるブロードバンドサービスが行われているところ



平成25年9月定例議会において
光ケーブルの防災対策の活用につ
いて同様の一般質問をいただい
ており、集会施設付近へ拡声器設置
及び災害情報の一斉送信システム
等の検討についてお答えしている
ところでございます。近年は、ス
マートフォンの普及が急速に進み、
総務省の資料によりますと携帯電
話保有者の62・6％となっている
ところでございます。また、イン

災害対策につきましては、色々な手段による迅速な情報伝達が必要と考えており、広報車の活用、町内会の協力など大きく多様な方法を同時に活用し、避難誘導につなげたいと考えているところでございます。現在の有線ケーブルは強風に弱い点もあり、今後におきましては無線の検討も必要かと思っております。

また、ただいま具体的に活用方法についてのご提言もあつたところでございます。それら等につきましてもどのような状況であるならば実施可能かということも含めまして内部で検討を進めたいというふうに思っているところでございますので、よろしくお願いを申し上げます。

小柳光義議員

場庁舎などから災害対策本部の情報を一斉送信するシステム、そういったものもあるのではないかと
いうことで、今後検討中ですと答
えられております。

さらに本日もそういう回答をさ
れていました。さらに、今、私ど
もが行っている事をさらに行って
いくことによって、できるだけの
情報範囲を広く、なおかつ確実
にしていく手段を講じていくべき
と
思っています。その意味では、
言われた意見の部分について担
当者とも検討している最中でござ
いますのでより有効な活用方法で
手段を検討していかねければなら
ないと思っています。引き続き検
討してまいりたいと思いますと山
崎町長が答弁され、その時は前
向き
の答弁をいただきました。あれ
からちょうど3年になります。その
結果をお聞かせください。

答弁 **山崎町長**

今言われた部分について、具体的に展開するものについて至っていないという状況でございます。特に防災の関係につきましては、これまでもやはり色々な周知手段

は多いほうがいいというふうに思っているところでもございますので、さらに今回のそれぞれの台風による被害等を含めまして、さらにそういった部分について幸いにして大事には至りませんでしたけれども、さらに認識を新たにして進めていかなければならないというふうに思っているところでございます。ただいまも申し上げましたように、具体的にこの分についてはこういうふうになりましたというところについては至っていないということでございます。

質問

小柳 光義 議員

私もそういう形で見えないので、立てばこういうことばかりしか言わないのかなと思われてもあれなのですけれども、ぜひいち早く進めていっていただきたいと思います。

今年7月に羊蹄山麓町村議会正副議長会、常任委員長研修会に参加させていただきました。富士山登録に伴う観光施策、また富士吉田市役所に行行政視察しました。私、朝テレビのチャンネルスイッチを入れたら、富士吉田市のチャンネル

ルがあり、いろいろな情報がそこで流されていました。富士吉田市の情報、生活情報、子育て情報、防災富士吉田、広報ふじよしなどをテレビで見られるようになっていました。

昨日も儲けられるとかお金の問題を話されていましたけれども、これにかつて行政がやるということとで、こういうのもあるのだなと思ったのは、ここに光ケーブルだとか、それからここに個人の商店のPR、広告が載っているのです。これらも当時は無料かなと思ったのですけれども、きょう一般質問するに当たって富士吉田市のホームページを開いてみたら、この料金が設定されている。夏と冬で分かれているというようなこと。夏であれば3万円、冬であれば2万円というような形で載っております。

また、北海道新幹線の開業に伴う観光施策の取り組みで函館市役所へ行政視察し、議場を見せていただきました。議場には2台のカメラが設置され、本会議を有線テレビで生中継、さらに市民から録画したDVDの貸し出し要望があった場合には無償で貸し出し、

市民に情報提供されています。管内でも議会中継を初め、町の行事、保育園、小学校、中学校の各行事が家庭で楽しまれています、特に高齢者の方に。また、1月前の新聞に記載されていました、たった1人のケーブルテレビ局。町民の日常生活を38年間映像を撮り続け、町の貴重な資料だそうです。京極町は、光ケーブル管線が整備されています。これらをもっと有効に活用していただきたい。今京極農業の担い手も衛星GPSの利用が手付けられています。いろいろと申し上げましたが、光ケーブル利用を私が、先ほどできる所から進めてはどうでしょうかに対して、山崎町長はどのような考えなのか。特に議会中継についても議会も前向きに議論しているところであります。明確にお答えいただきたいと思っています。

答弁

山崎 町長

今、具体的に富士吉田市と函館市の事例も紹介していただきましたし、そういった部分について勉強させていただきましたというふうに思いました。そういう中で、こ

れまでも議会中継を含めて色々ご意見等もいただいているところでもございますけれども、至っていないというところはそのとおりでございますので、今言われた資料等もまた勉強させてもらいたいなというふうに思います。

質問

小柳 光義 議員

いち早く進めていただきたいと思います。

今年3月に京極町過疎自立促進計画というのを全議員に配られております。28年から32年という年度になっております。その中にも情報に関していろいろやっていかなければならないということが書かれておりますので、少なくとも32年までには完了できたというふうに言っていたいただきたいと思います。

答弁

山崎 町長

過疎計画の中にもあると、こういう指摘でもございますし、そういった部分も踏まえた上で対応してまいりたいなというふうに思います。

意見書

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

.....原案可決

提出者 議員 小柳 光義
賛成者 ” 中村 厚子

” 四宮 幸一

” 渡邊 昭

” 後藤 尚浩

林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

本道の森林は全国の森林面積の約4分の1を占め、国土保全、地球温暖化防止、林産物の供給等の多面的機能の発揮が期待されており、これらの機能を十分に発揮させるためには、「植えて育てて、伐って使って、また植える」といった森林資源の循環利用を進める必要がある。

また、森林の整備を進め、木材を積極的に利用して林業・木材産業の成長産業化を図ることは、山村地域を中心とする雇用・所得の拡大による地方創生にも大きく貢献するものである。

このような中、道では、森林の公益的機能の維持増進や森林資源の循環利用の実現に向け、森林整備事業及び治山事業や次世代林業基盤づくり交付金等を活用し、植林・間伐や路網の整備、山地災害の防止、木造公共施設の整備など、さまざまな取り組みを進めてきたところである。

今後、人工林資源が本格的な利用期を迎える中、こうした取り組みをさらに加速し、地域の特性に応じた森林の整備・保全を着実に進めるとともに、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化を実現するための施策の充実・強化を図ることが必要である。よって、国においては、次の措置を講ずるよう強く要望する。

記

1、「森林環境税（仮称）」等を早期に創設し、森林の整備や木質バイオマスの有効利用など、森林吸収源対策を推進すること。

2、森林の多面的機能を持続的に発揮し、林業・木材産業の振興と山村における雇用の安定化を図るため、森林整備事業及び治山事業

の財源を十分かつ安定的に確保すること。

3、森林資源の循環利用を通じて林業・木材産業の成長産業化を実現するため、地域の実情を十分に踏まえ、森林整備から木材の加工・流通、利用までの一体的な取り組みに対する支援措置を充実・強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年9月8日

北海道虻田郡京極町議会議長

【提出先】

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・文部科学大臣・農林水産大臣・経済産業大臣・国土交通大臣・環境大臣・復興大臣



訂正とお詫び

議会だより155号の一般質問に対する、町長答弁12ページの5行目に「菊地議員さんのほうからも」とあるのは「議員さんの中からも」の誤りであり、訂正してお詫び申し上げます。

京極町議会から
お願い!!

議長宛の案内などの文書は、必ず議会事務局にお届け願います。



寒さが厳しくなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。過日開基120年の式典も催され、あらためて先人の労苦を偲び、感謝の心を持ったところです。人口減少期を迎える中で、なんとか子供達に幸福を感じる町を残せるよう努力を続けたいと思っています。「議会だより」については、町民の皆様より数多くの提案を頂き感謝致しております。一歩ずつ町民の皆様の期待に応えるよう精心に努めたいと、委員一同知恵を出し合っています。何卒ご寛容の程お願い致します。厳しい冬を迎え、町民の皆様が健康に過ごされることを祈念しております。

議会だより編集委員会

委員長 四宮 幸一
副委員長 鈴木 敏行
委員 村上 敦
後藤 尚浩

